
バカテス～吉井と零崎と召喚獣～

tyta

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカテス〜吉井と零崎と召喚獣〜

【Nコード】

N3513Y

【作者名】

tyta

【あらすじ】

学年一の馬鹿である吉井明久はある日殺人現場を見てしまった。そこに居たのは一人の青年。そして吉井明久は零崎になる。

僕、吉井明久は今朝もFFF団に追われて、昼には鉄人に追われ、放課後悪友である雄二やムツリーニ、秀吉とかけをやりたりして楽しい何時もと変わらない日常を送ってた、けれども

「かは、傑作だぜ」

今僕の目の前にはバラバラになった人の死骸とその死骸を作った顔に入れ墨をした青年が居た。

「いや、地元の間人あまり通らないって聞いてここで殺したんだけど。まさかこんなタイミングで人が来るなんてな」

彼は何でもないことの様に話す。しかし、僕にはその声も聞こえない、僕の目は傍に転がってる死骸にくぎ付けになった。

「この切り口から見てナイフで切ったってわけじゃないな」

僕が発した言葉に彼がしゃべるのをやめた。

「ナイフを出してそれを見たその人がパニックになってその糸に突っ込んだんじゃないの？」

「へ、この糸まで気がついてたのか」

そう言って青年は糸を引っ込める。その時後ろの通りから誰かが入ってくる気配がした。

「うん？ 君たちここで一体何を？」

そうやってきたのはサラリーマンのようだ。

「うん？ そこに転がってるのはいった…！？」

そのサラリーマンが転がってる物の正体に気が付き叫ぼうとした、
が

「させないよ。僕まで面倒なことに巻き込まれそうだもん」

僕はそのサラリーマンの口をふさぎ鞆から出していたシャーペンを背中に刺す。

サラリーマンが2、3回痙攣をして、動かなくなった。

「さてと、長居し過ぎたしそろそろ帰らなきゃ」

そうやって僕がその場を去ろうとすると

「かは、傑作だぜ。お前も零崎か」

さっきの出来事を見ていた青年がそうやってきた。

「僕は吉井明久だよ。零崎何て名前じゃないよ」

「そうか、吉井明久ね。俺は零崎人識、殺人鬼さ」

そうやって僕と青年…零崎人識はお互いに背を向けて歩き出す。
これが僕と零崎の出会いであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3513y/>

バカテス～吉井と零崎と召喚獣～

2011年11月8日20時05分発行